

小児内視鏡手術の現状と展望

*演題が変更となりました。Title has been changed.

日時：平成26年1月23日（木）17:30～ January 23 (THU), from 17:30.

場所：医学教育図書棟 4階 第3講義室

通常とは開催曜日、場所が異なります。
ご注意ください！

Lecture Room 3, Medical Education & Library Building 4F.

講師：岩中 督 教授 Prof. Tadashi Iwanaka (Pediatric surgery, Tokyo University)

(東京大学大学院医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻 小児医学講座 小児外科学)

*** ABSTRACT ***



小児領域における内視鏡手術は、術野が小さく、臓器は脆弱であり、その難易度は高い。また細径の医療機器・医療材料の不足、高難易度の全身麻酔などの悪条件に加え、対象疾患が多岐にわたること、これら疾患のほとんどが稀少疾患であることなどより、技術の習得に時間がかかる。また、成長・発育する小児では将来の機能温存に特に配慮する必要がある。

本講義では、

- 1) 新生児・乳児に対する内視鏡手術の現状
 1. 胸腔鏡下食道閉鎖症根治術
 - ① 出生直後の一期的食道端々吻合術
 - ② 胸腔鏡下 Foker 延長術実施後の新生児期食道吻合術
 - ③ 腹腔鏡手術を併施した全胃吊上げ術
 2. 排便機能に配慮した腹腔鏡補助下鎖肛根治術
 3. 横隔膜ヘルニアに対する腹腔鏡下根治術と胸腔鏡下根治術
- 2) 小児がんに対する腹腔鏡手術
 1. port-site recurrence 対策の基礎研究から実臨床への展開
 2. リンパ節廓清併施腹腔鏡下神経芽腫全摘術
- 3) 手術手技の習得とその評価のあり方
 1. ボックストレーニング
 2. ハンズオンコースから技術認定まで

などについて、自験例を中心に述べる。

担当：小児外科学・移植外科学分野 猪股 裕紀洋 教授

Inviter: Prof. Inomata (Department of Pediatric Surgery & Transplantation)

e-mail: yino@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp

医学教務: iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp

